

平成 29 年 3 月 2 日参議院予算委員会議事録

○委員長（山本一太君） 次に、松沢成文君の質疑を行います。松沢成文君。

○松沢成文君 無所属クラブの松沢成文でございます。

今日は東京五輪の問題について伺います。

まず最初に総理に伺いたいんですが、東京五輪の準備もたけなわというか大変重要な時期を迎えておりますけれども、総理は開催国のトップリーダーとして、これまでの準備状況を見て順調に進んでいるとお考えでしょうか。その中で、五輪担当大臣を設置しておりますけれども、丸川担当大臣がリーダーシップを発揮して総理の期待に十分に答えているとお考えでしょうか。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの成功について我々も全力を挙げていきたいと、このように思っております。もちろん、準備状況には様々な課題がありますが、国と東京、しっかりと協力しながら、組織委員会と協力しながら成功に導いていきたいと、このように思っております。

その中で、丸川大臣にはしっかりとその役職を果たしていただいていると、全面的に信頼をしております。

○松沢成文君 その五輪準備の中で、私が国会でもずっと追及してきているゴルフ場の選定問題を取り上げたいんですけれども、誤解のないように改めてここで申し上げておきますが、私は霞ヶ関カントリー倶楽部の悪口を言ったり非難しているのでは全くないんですね。実は私も二十年ぐらい前にプレーしたことがあります、すばらしくきれいで立派なゴルフクラブです。私もお金があったら入りたいぐらいです。

ただ、今回の東京五輪の会場としては全くふさわしくないという指摘をしているんです。それは、今日取り上げる規約の問題もそうです。あるいは、プライベートクラブですからレガシーにもなりません。さらには、日本一暑い場所。そして、選手村から物すごく遠い、アクセスが悪い。したがって、開催するにはめっちゃくちゃコストが掛かる。だからふさわしくないということを申し上げているんですね。

さあ、そこで、去年の十一月に私が国会で初めて霞ヶ関の規約の中に女性が正会員になれないということを取り上げましたら、いろんな反響が出てきました。実は、I O Cまでそんなの初めて聞いたと、どうなっているんだということになったんですね。

それで、前回も聞いていますけれども、丸川担当大臣、この問題が出てきたわけですが、あなたの認識をもう一度聞かせていただきたいことと、五輪担当大臣というのは準備のための総合調整をするわけですね、その中で霞ヶ関カントリー倶楽部に対してどういう指導をしたのか、教えていただきたいと思います。

○国務大臣（丸川珠代君） 一月に御質問をいただいたかと思いますが。そのときも申し上げましたけれども、オリンピックを開催する会場としてI O Cの問題意識をどう捉えていくのかということと、私的なクラブとしてのルールをどうお考えになるか、クラブ自身として、という二つの問題がありますと。

私的なクラブは私的なルールでお決めいただければ結構なんですけど、事オリンピックを開催するというときに当たってI O Cが懸念されていることについては、しっかりとそれにお応えになる必要が、もし協議をなさるのであれば必要だろうということをお申し上げ、女性の正会員を認める必要があるのではないかとということをお申し上げました。

結果、その翌日か翌々日か、ちょっとはっきりは忘れちゃったけれども、文書だけ出しておられた要請を、改めてJ G Aとそれから組織委員会と、そして霞ヶ関カントリー倶楽部で直接会って話をするという方向に向きましたので、今現在、要請を真剣に検討していただいているというふうに認識をしております。

○松沢成文君 この霞ヶ関で今その問題、議論が始まっています、理事会をやったり何か総会をやったり意見交換会をやったり、規約を改正していくべきか、規約を改正すればオリンピックができるということになるのかもしれないし、規約を改正しないのであればもうI O Cは別の会場を探しているわけですね。

ただ、これがどんどんどんどん長引いてくると、万が一霞ヶ関でできない場合、次の準備もあるわけですね。ですから、これが半年、一年となってくると、これは大変、準備状況滞ってくるわけですね。大臣としてはいつ頃までにきちっと結論を出していただきたいと思っておりますか。また、そこまで指導していますか。

○国務大臣（丸川珠代君） まず、私自身が申し上げたことは、この国会の場でもなるべく早く結論を出してもらいたいということをお申し上げました。組織委員会また関係者のそれぞれの思いを私が伺っている限りにおいては、少なくとも一年も掛けていては間に合わないの、そのような時間軸では考えないで進めてもらうということをお考えいらっしゃるということをお認識をしております。

まだどうなるという具体的な日にちまで申し上げられませんが、会場変更ということをお考えるに当たっては、当然その後の手続がどのくらい掛かるのかということをお十分検討しておく必要があります。

ゴルフ場に関してではないのですが、かつて、まだ小池都知事が誕生する前に、組織委員会の段階でバスケットボールの会場を変更したことがございました。このときは全く新たにまた手続を始めるわけです。それぞれの国の国内の競技連盟がまず組織委員会と協議して、その後国際競技連盟の承認を得る、最終的にIOCの承認を得るんですが、大体この手続に八か月を要したということですので、それから逆算する形で大体のめどを持っていただければ有り難いと思っております。

○松沢成文君 それで、今後、もしこの霞ヶ関が規約を変えられないから今回は辞退したい、あるいは規約のままやってほしいなんということになって、それはもう不適合だから霞ヶ関では駄目だというふうな結論になった場合に、ゴルフ会場問題はまた一から選び直しということでもいいんですね。

○国務大臣（丸川珠代君） 今もう組織委員会がコントロールをしている状況の中にありますので、会場の変更決定に関しては、まず組織委員会が国内の競技連盟、JGAと協議をして、国際競技連盟、IGFの承認を得た上でIOCの理事会へ諮ることになっております。

○松沢成文君 それでは、これ政府のスポーツ庁になるかもしれませんが、なぜこの規約問題、女性が正会員になれない、まあIOCから見ると五輪憲章に反すると、平等原則に反する、こういう問題が起きたのか。そのことについて調査はしていますか。

○政府参考人（高橋道和君） スポーツ庁といたしましては、霞ヶ関カンツリーゴルフ倶楽部において女性が正会員になれないことが国際ゴルフ連盟、IGFへの説明資料に盛り込まれていなかったといった報道がございまして、これを受けて、東京都と日本ゴルフ協会、JGAに対し、当時の状況について聴取を行いました。

東京都からは、国際ゴルフ連盟には正会員は男子のみと定めた霞ヶ関カンツリー倶楽部の定款細則は送付していない。その理由は、霞ヶ関カンツリー倶楽部側から男女間の差別を撤廃するとの回答を得たためであるといった回答がございました。一方、日本ゴルフ協会についてもこの点を問い合わせましたところ、この点については東京都と霞ヶ関カンツリー倶楽部の間で言った言わないの話になっており、日本ゴルフ協会としては、霞ヶ関カンツリー倶楽部が東京都に回答した内容については確認できていない、こういった回答をいただいたところでございます。

○松沢成文君 いや、これね、大変重要な問題が出てきたと思うんですよ。

実は、この問題、隠されていたんです。霞ケ関からしてみると、何で規約なんて前から分かっていたのに今更持ち出してきて、もうこっちは迷惑掛かっているんだと、こう思っているかもしれませんが、実は、二〇一二年、これ会場を決めるとき、実は、日本ゴルフ協会から国際ゴルフ連盟に霞ケ関でいいですかと。そのときに会場の視察と、それから書類を送っているんです。で、その書類の中に、女性が正会員になれないという部分を削除して送っているんですよ。これ、大変なことなんですよ。

大臣、それ知っていましたか。

○国務大臣（丸川珠代君） この答弁をするに当たってスポーツ庁の説明を聞きました。

○松沢成文君 ゴルフ場問題を決めるには、国内のゴルフ協会、そこが国際的な世界ゴルフ連盟と相談して決めるんですね。そのときにちゃんと情報を上げるわけです。でも、その情報の中に、故意に霞ケ関の女性が正会員になれないという規約が隠されていた。それは、先ほどの東京都の当時の担当の職員が、霞ケ関から上がってきた書類で、これ全部出していいんですかと、特にこの規約のところは問題じゃないんですかと問い合わせしているんです。そうしたら、霞ケ関の方は、いや、それはすぐ変更するから、問題ないから、そこは出さなくていいと言っているんですよ。これ、完全に故意ですよ。それで、何とこの霞ケ関の当時の役員が、まだ私追及中で誰か分からないんですが、この人が何と日本ゴルフ協会の役員も兼ねていた人の可能性があるんですよ。

そうなりますと、大臣、これは情報操作です。完全に、霞ケ関が会場に認められたいがために一番大事な情報を故意に、それも日本側で、つまり、日本ゴルフ協会が入っているかどうか分かりませんが、でも少なくとも東京都と霞ケ関が相談してその情報を外したんです。それで、霞ケ関の情報はこうですとあって、すばらしいゴルフ場を視察してもらって、霞ケ関の情報はこうですとあって、それで認めてもらったんです。

ですから、これは完全に選考過程に瑕疵があるんじゃないですか。その疑惑があるとしたら、大臣、これを徹底して調査すべきではないですか。どうでしょうか。

○国務大臣（丸川珠代君） これから霞ケ関がどうなさるかということとは別に、スポーツ庁において、今言った言わないになっているというのが私もちよっと意味がよく分からないので、その点をもう少し十分な説明が受けられるようによく調べていただきたいと思います。

一方で、IGFの基準に照らしてどうなのかということについても、もう一度よく確認をさせていただきたいと思います。

○松沢成文君 IGFの基準は全く関係ないんです。要するに、IGFが日本ゴルフ協会から上がってきた情報を見て、そして現地の霞ヶ関カントリーを視察して、これならいいですねと、国際団体も認めましょうと決めて決まったんです。それで立候補ファイルに入ったんです。

でも、その判断をするための霞ヶ関の情報の中に、一番大事な女性が正会員になれないという規約の情報は外されていたわけですよ。これ、外されたというのは故意に外されたんです、日本側で。ですから、このプロセス自体、これ不正があったわけですから、完全に無効じゃないですか。だから、これは今に始まった問題じゃなくて、霞ヶ関が認定されたときに、不正によって認定されていた可能性があるんですよ。そこをきちっと判断して、調査委員会を立ち上げていただきたい。いかがですか。

○国務大臣（丸川珠代君） どういう手段で調査をするかは別として、調査はしたいと思います。

○松沢成文君 もう一点お聞きします。

二〇一二年二月の招致ファイルには、実はゴルフ会場は若洲ゴルフリンクスでいくというふうになっていたんです。それが、約一年後の二〇一三年一月の立候補ファイルには、急に霞ヶ関カントリー倶楽部と変更されて記載されていたわけですね。どうしてこういうことになったのか、差し替えられたのか、説明ください。

○政府参考人（高橋道和君） お答え申し上げます。

申請ファイルにつきましては、作成当時、国際ゴルフ連盟、IGFから会場に必要な基準が示されていないこと、また民間のコースを記載するには十分な調整を行う時間がないこと等により、選手村から至近の距離にある東京都所有の若洲ゴルフリンクスを記載したものと承知をしております。

その後、日本ゴルフ協会として、関係団体や東京都の参画を得て、オリンピックゴルフ競技対策本部、二〇二〇東京招致委員会を設置して検討を行った結果、霞ヶ関カントリー倶楽部を選定し、国際ゴルフ連盟の同意を得て、立候補ファイルに記載する会場を決定したものと承知をしております。

○松沢成文君 ここも大事な問題なんですけれども、どこが権限と責任を持ってオリンピックの会場を決めるのか、ここの定義が難しいんですが、政府の説明を聞いていると、まず日本国内のNFという団体と国際的なIFという団体が協議

をして、最終的にはI O Cが承認して決まると、あるいは、済みません、組織委員会が承認して、それを受けてI O Cが承認して決まるといふんですけども、このゴルフ場については、そういうプロセスの中で、最初に日本ゴルフ協会が自分たちの基準を作って、それで若洲を落とし、霞ヶ関を入れているんです。それを最初にやって、その後に国際ゴルフ連盟に、霞でいいですか、霞はこういうクラブで、現地も視察してくださいと言って認定をいただいているんですね。ですから、協議していないんです。一方的に日本側で決めて、国際ゴルフ連盟にこれでいいですねと言っているんですが、そのときの情報すら操作しているんです。これね、全く疑惑だらけですよ。大変なことだと思いますけれども。

ここを聞いても、大臣まだ情報ないんでね、そこまでできないと思うんですが、更に驚いたことに、この会場変更に関わっていた日本ゴルフ協会の役員の方が何と霞ヶ関カントリー倶楽部のメンバーなんです。これね、大臣ね、こういうのを利益誘導というんじゃないですか。一番分かりやすい利益誘導ですよ。自分が所属するクラブにどうにか持っていきたくて、情報操作して、書類もある意味でその書類を出して、自分たちで一方的に決めて国際ゴルフ連盟にとにかく見てもらおう。これ、利益誘導というんじゃないですか。いかがでしょうか。

○国務大臣(丸川珠代君) 書類の件はちょっと調査をさせていただいて真偽のほどを確認したいと思いますけれども、その会員の方が御自身のクラブでやりたいという思いを持った結果クラブが多大な負担を払うことになったのがよかったのか悪かったのか、私にはちょっと何とも言い難いことがございまして、今も会員の間で割れているのは、多分、ここまでしてやる必要があったのかということだろうと思います。ですので、これが利益だったのか損失だったのか、ちょっと私には何とも申し上げられません。

○松沢成文君 大臣、是非とも、このゴルフ会場の選定の問題は、疑惑だらけになってきましたので、先ほども大臣、調査をするとおっしゃっていただきました。この書類審査のところの調査と同時に、どうして日本ゴルフ協会主導でどんどんどんどん、ありきで、霞ヶ関ありきで進められていってしまった、そのプロセスについて、これはきちっと、正当性があるのか、透明性があるのか、調査をした上で我々国会の方にも御報告をいただきたいというふうに思います。これは要望しておきます。

総理、最後ちょっと御質問しますが、私は総理と認識が違って、オリンピックの準備はトラブル続きだと思っているんです。もう三年ぐらい前に、新国立を造ろう、もうどんどんどんどんコストが上がって行って、私は何度も文教委員会、

予算委員会で当時の下村大臣、遠藤大臣に、このままじゃまずいですよ、とにかくここは一からやり直した方がいいと言って、撤回して、白紙撤回してやり直しを求めたんですが、もう両大臣とも、とにかくプロセスを経て決まっていますので何も問題はありまないと、ずっと突き進んだわけです。そうしたら、世論が盛り上がっちゃって、最後はもう安倍総理が、このままじゃまずいということで、森組織委員長、会長にも会って、白紙撤回という決断をなされてこうなったんですね。

実は、このゴルフ会場の問題についても私は何度も、ほかのテーマでも、気候の問題でもアクセスの問題でもコストの問題でも問題だらけだと。ところが、丸川大臣は、結局答弁書を見ながら……

○委員長（山本一太君） 松沢君、時間が来ておりますので、まとめてください。

○松沢成文君 もうこれまでのプロセスで正しいので全く問題ありませんと、これ繰り返すばかりなんですよ。でも、またこういう状況に来ているんですね。

総理、担当大臣のやっぱり人選、これももう少し改革心のある人をきちっと据えていただかなければ……

○委員長（山本一太君） 松沢君、時間ですので。

○松沢成文君 五輪の準備、トラブルだらけですよ。

リーダーシップのある担当大臣のために、是非とも指導をいただくということをお願いしたいんですが、最後にいかがでしょうか。

○委員長（山本一太君） 総理、短くお願いいたします。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 大きな大会でございますから、そう簡単なことではなくて、様々な課題があります。それを我々は今一つ一つ乗り越えてきているわけございまして、今御議論の課題についても、丸川大臣は十分に私はリーダーシップを発揮をしている、答弁については所管大臣としてこれは慎重な答弁をいたしますが、リーダーシップについてはこれは折り紙付きではないかと、このように考えております。

○松沢成文君 ありがとうございます。

○委員長（山本一太君） 以上で松沢成文君の質疑は終了いたしました。